



## 結願の日のこと

野村資産承継研究所  
理事長

川北 力

15年ほど前、大阪国税局勤務のころ、「西国33か所観音めぐり」にトライした。ご承知の通り、近畿2府4県（+岐阜県）に点在する33か所の観音霊場を巡礼するものであり、1300年の歴史があるという。信仰心の乏しい私にとっては、任地探訪を計画的に進めながら、単身赴任の週末の時間つぶしにする、という趣向だが、大きな組織（管内税務署が83署ある）を預かったのが、現場の無事を神仏に頼みたい気分になっていたのだと思う。

ただし、読経はせず、白衣や輪袈裟も身に着けず、納経帳に御朱印を集めるだけ、回る順序も都合次第、という無作法な巡礼者だ。「観光地スタンプリヤー」にすぎない。それでも、任期終了間際になって、任地の外にある第33番札所を除き、第32番まで回り終えたときは達成感があった。

結願の地、第33番札所「谷汲山華嚴寺」は岐阜県揖斐郡にあるため、そちらに行ったのは、東京に戻ってから3年後だった。

華嚴寺参道では、厳かな中に満願を成就した巡礼者の喜びの雰囲気を感じられるといわれる。そんな参道で、見知った顔に出会った。在阪時の同僚でたいへんお世話になったSさんだ。あのとき彼は体調を崩し長期療養を余儀なくされたのだが、聞けば、退官後リハビリを兼ねて西国巡礼を始め、ようやく結願に至ったとのこと。い

ささか手足が不自由のようにお見受けしたが、おひとりでゆっくり歩いておられた。

お互いその日が結願の日となったのは偶然の

一致だし、東京と大阪から出かけた我々が岐阜の山中で再会するとは摩訶不思議なこと。職場の縁の深さを感じ入り、ツーショットの記念写真を撮り、東西に別れた。

しかし、その後ほどなくして、Sさんの訃報が届き唖然とした。あの日は最後の力を振り絞っての巡礼旅だったのだろうか。満願成就して極楽浄土への道ができていても、ちょっと急ぎすぎだよ。

さて、小生、コロナ情勢が小康を得た昨秋、マイカー日帰りで密を避けながら、「坂東33か所観音」をいくつか訪れました。古来庶民は災厄終息を神仏に祈ってきましたが、寺務所で言うと、コロナ禍でバスツアーが催行されず巡礼客が激減していた由。御朱印の脇に「疫病退散」の特別印が追加されています。我慢生活丸2年、早く退散してほしいものです。

